地震に そなえよう

阪神・淡路 大震災（１９９５年1月１７日５時４６分、地震の 大きさを 表す マグニチュード７．３）が 起こった 1月１７日が「防災と ボランティアの 日」、１月１５日から １月２１日までが「防災と ボランティア週 間」と 決められています。

阪神・淡路 大震災が 起こった後、日本・他の国から 急いで 来た 多くの ボランティアが いました。災害で 被害に あった 地域の 求めに 応える さまざまな 活動が 行われ、共 助（近くの 人と 助け合うこと）による 防災 活動の 原点と なりました。ボランティアの 数は 兵庫県の 調べによると、地震が 起きた 日から ４月１８日までの ３か月間で 合わせて １１７万人にも なりました。新潟県 中 越 地震（２００４年１０月２３日１７時５６分、マグニチュード６．８）や、東日本 大震災（２０１１年3月１１日１４時４６分、マグニチュード９．０）の時も、多くの 人が ボランティア活動に 参加しました。

大きな 地震の 起きた すぐ後に 一番 大切なことは、人の 命を 守ることです。そして、火事による 被害を できるだけ 少なくすることです。また 同時に、壊れた 家などの かわらや、石の 下などに 埋もれた人を できるだけ 早く 助け出し、病 院に 運ぶことも 大切です。

しかし、阪神・淡路 大震災では、地震が 起きた すぐ後から 火事や 多くの 救 助・救 急が 必要な できごとが 集中 して起きました。道路が ふさがれ、電話などが 止まった 状 況 で、いつもの 消 防の 仕事を する人たちだけで 対応するには 限りが あり、自助（自分で 備えておくこと）・共 助が どのくらい 必要かが 再び 知られました。

これから ３０年以内に ７０%の 確率で 首都直下地震（東京で 起こる とても 大きな 地震）が 起こると 言われています。「防災と ボランティア週 間」を つうじて、ひとりひとりが 防災に ついての 意識を 高くします。災害への 備えを もっと良くしていって ください。

詳しくはこちら

「地震に備えて」（日本語）https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/jisin/life00.html

「地震に対する１０の備え」（日本語）https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/jisin/sonae10.htm